

第 71 回 全 日 本 大 学 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 選 手 権 大 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第71回全日本大学バスケットボール選手権大会		
●日程	令和1年12月9日 (月) ~ 令和1年12月15日 (日)		
●会場	駒沢オリンピック公園総合運動場体育館・エスフォルタアリーナ八王子		
●IR	橋本信雄氏、阿部哲也氏、前田喜庸氏、関口知之氏、山田巧氏、伊藤恒氏、星河良一氏 ＊把握している限りです。		
●スケジュール	12月8日(日)夕方移動～東京へ前日入り 12月9日(月)エスフォルタアリーナ八王子会場 13:10～女子1回戦担当(新潟医療福祉大学-桐蔭横浜大学) 12月10日(火)エスフォルタアリーナ八王子会場 13:10～女子1回戦担当(愛媛大学-日本経済大学) 終了後、大阪へ帰宅		
●担当試合	令和1年12月9日 (月) 13:10 ~		
	対戦カード	新潟医療福祉大学 VS 桐蔭横浜大学	
	審判	CC: 武井晋平氏(栃木) U1: 清瀬未喜 U2: 穂川苑子氏(群馬)	
	IR	伊藤恒氏	
	講評	・テンポセッティングをもう少しはっきりと示せると良かった。 特にゲーム序盤のハンドチェックに対しては笛を入れていく必要がある場面があった。後半から鳴らし始めるのではなく、最初からメッセージを伝えていく。 ・UFで取り上げたケース(コール:U2)は、すぐにレポートに行かず、一度クルーを集めて情報確認してからNFかUFでも遅くなかった。 ・逆に、4Q残37秒6点差。NFで取り上げたケース(コール:U1)はUFでも良いケースで、コール時、UFが頭にあると良かった。	
	自己の感想	・ゲーム開始後、表示版(入力内容と表示内容)の操作の事で不具合があり、ゲームが一時中断してしまった。これは、コートインスペクションを丁寧にしていれば防げた事。ブザーの確認や機材の位置などは行っていたが、操作方法、表示の仕方までは確認不足であり、慣れない機材だからこそより確認が必要。 ・新潟医療のプロテクトシューターに関して、クルーでしっかり判定が出来ていたケースと、際どいケースで怪我につながる恐れを考えると笛を入れた方が良かったのかと自身で決断できなかったケースがいくつかあった。 ・3or2やOOBはクルーでも常にヘルプやアシストが出来ていたのでミスなく進行できた。 ・瞬間的に笛が鳴ってしまう癖があり、今は常に「明らかに」「画が出来てから」と意識して取り組んでいる最中。ただそれを意識するがあまり、見過ぎてしまったり、考えすぎて決断が遅れてしまうことがこのゲームに関してもあった。その差を出来るだけ無くせるようにしていきたい。 ・IRの方のコメントにもあった4Q残37秒、自身でコールしたNF。 ベンチからアピールはなかったものの一瞬UFが頭に浮かんだがそこで「クルーを集める」という判断が出来なかった。まずはクルーを集める、もしくはクルーがコールして同じようなシチュエーションだった場合、CCMを発揮して一度集まる決断が出来るようにしたい。	

●担当試合	令和1年12月10日 (火) 13:10 ~		
	対戦カード	愛媛大学	VS 日本経済大学
	審判	CC:岩月遼司氏(長野) U1:清瀬未喜 U2:山本光太郎氏(宮城)	
	IR	なし	
	講評	なし(クレー間だけでのミーティングでした)	
	自己の感想	・日本経済大学に190cmクラスの外国人選手が2名おり、日頃なかなかそのようなプレイヤーのいるチームを吹くことがなく、事前に映像で確認し準備はしていました。100点差と日本経済大学が大きくリードする展開のゲームでしたが、実際にコートに立つと、そのプレイヤーに対する守り方、見方、捉え方、手のリーチの長さ、体の使い方など難しさも感じ、とても良い経験となった。 ・バックコートからセンターサイドへパス、もしくはボールが運ばれ、高い位置でアクティブな状態でのローテーションは、PGCでもしっかり確認出来たので、ストレスなくスムーズにローテーションすることができた。 ・チェックイン、チェックアウトの連携の部分で、自身がチェックアウトするのが遅くなり、ダブルトレイルになってしまうケースが少しあった。ボールを追いつぎすぎていることが原因であり、相手がチェックインしたことを認識できる余裕を持ちながらアジャストすることも意識したい。 ・外国人選手が出ていない時間帯や日本経済大学の控えの選手が多く出てくる展開にはいつでも備えていようと注意をしており、クレー間でもコミュニケーションをとりながらゲームに対応することが出来た。 ・初めて吹く対戦カードを初めて会うクレー3人で1試合担当するにあたって、各自の事前準備はもちろんですが、PGCで再確認し、いかにベーシックなメカニクスを忠実にやり続けることが大切かということを感じました。 ・最後になりましたが、このような貴重な経験をさせて頂く機会を与えてくださいました、黒岡委員長をはじめ、大阪府審判委員会の方々に感謝申し上げます。次のステップに向けて日々取り組みます。本当に有難うございました。	